

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100247		
法人名	医療法人岡仁会		
事業所名	グループホームきょうりつ		
所在地	大分県大分市大字奥田30-1		
自己評価作成日	令和元年10月13日	評価結果市町村受理日	令和2年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490100247&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府巻番館 1F
訪問調査日	令和元年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、昔から地元で開業しており、地域住民の方が利用していた病院が運営している施設です。入居されている方の多くは地元地域で生活されていました。開設当初から建物を目にされていたので安心して入居する事ができたと言われる事が多く、ご家族様や近隣の方が立ち寄りやすい施設だと思えます。入居者様には昔から馴染みのある地域との繋がりを続けて頂けるよう地域の行事にも積極的に参加して、顔見知りの方とのふれあいや交流を絶やさないようにしています。医療法人が運営していますので様々な困りごとや普段の生活で気になる事などに対して、医療、MSW、リハビリなどの専門職よりの助言やご本人様、ご家族様を交えての意見交換を行っています。職員は入居者様に家庭で過ごしているようだと感じる施設を目標に支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の馴染みのある地域という立地の中で、出来る力の発揮(地域行事の参加)や役割のある生活(片付け等)が利用者の自信回復として生かされています。母体が医療法人であることから、職員は看護職員とともに安心して利用者のケアに取り組むことができています。安心、安全な環境の中で利用者の居場所作りを基本に事業所の情報を運営推進会議を通して地域に発信しており、協力体制が得られています。また、利用者の思いを尊重する中で、「漬物が食べたい」と言う希望に、中庭に畑を作り、野菜を植え一緒に育てる方、成長を喜ぶ方、収穫を楽しむ方等利用者の思いの実現に向けた職員の行動力は評価されます。本年度は「看取り」への取り組みが前進し、医療との連携で「指針」が確立され、勉強会等を開催し職員の意識とケアの向上に繋げています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議では理念の唱和を行い、職場での目のつきやすい場所に理念を掲げ意識づけをしています。入居者様への支援方法の判断や決定には理念を踏まえています。	毎月の会議で理念「笑顔・真心・尊重」を唱和しています。常に立ち戻る根本的な考え方とし、日々の支援の中で問題解決の判断基準にしています。理念を管理者と職員は共有・確認しながら支援に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会の会報を配布して頂き、自治会の行事などを知る事が出来ています。入居者様も参加できる行事などには毎回参加しています。小中学生の体験学習の受入れを行っている。	自治会や子供会行事には積極的に参加し、学生ボランティアの受け入れ、法人のスマイルカフェには、利用者も参加して地域の人々との交流が図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の入居者様が多い為近所の散歩や受診の付き添い時に、地域の方から話かけられることが多くあります。地域の方との会話を楽しめるように会話の架け橋を行っている。認知症の勉強会などはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で行った話し合いの意見を基に介助支援方法や職員業務等の改善や変更を行っています。変更した内容やその後の経過などは運営推進会議で報告をおこなっています。	運営推進会議は、2ヶ月に1回地域代表・行政の担当者・家族代表・事業所代表の10名前後のメンバーで開催されています。事業所の現況報告、時節に合わせた課題を情報交換し幅広い意見を頂き事業所運営や利用者支援が図られています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では毎回参加をお願いしています。運営推進会議では様々な事に対して意見やアドバイスを頂いています。更に急を要する事例などは担当者に連絡を行い協力を頂いています。	毎回運営推進会議への出席で意見を頂き、法人を通してアドバイスを受けています。市役所訪問や電話での相談もあり共に問題解決に向け協力関係を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束をしないケアの実践を目指しています。毎月1回身体拘束防止カンファレンスを行っています。毎回テーマを決め資料を基に学習と職員間でテーマ内容について協議を行なっています。	毎月1回、身体拘束についての会議を行い、全職員が利用者の人権を守るという認識のもと、自由な暮らしを支援しています。虐待に関して、言葉掛け(スピーチロック等)に注意し、会議でケアの振り返りを行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束カンファレンスに合わせて入居者様への支援方法や声掛けが虐待や拘束になっていないか意見交換を行っています。自分では気が付かず無意識に虐待行為をしてしまわないようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人養成講座を受講し制度を学ぶ事をし、必要性が高い入居者様のご家族と話し合い、成年後見制度を利用した入居者様もいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前にご本人、ご家族と契約書や重要事項説明書の十分な説明を行っている。利用開始にあたり不安な事や疑問等を聞いてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などにご家族と職員で話しをし意見を伺っている。また、運営推進会議にも積極的に参加して頂き意見をもらっている。	面会時の職員との会話や、運営推進会議に参加して頂き率直な意見・希望を伺っています。利用者・家族の思いを全職員に周知し改善に向け検討が行われています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	どんなことでも意見を言える雰囲気や関係に努めている。提案などはみんなで話し合えるよう、月に一度の会議などで伝えている。	現場職員の意見を十分聞き、更にグループ会議で提案を検討し業務改善や職員の就労改善へと繋げています。病院によるストレスチェックを行い、職員のストレス軽減を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇、特別有給休暇を使いやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や勉強会で学ぶ機会がたくさんある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南大分圏域地域連携会に参加している。大分県小規模介護ネットワークに入会していたが、現在はなくなった為同業者と交流する機会が少なくなった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望され予約時からご本人様の希望や困っている事等を確認し、入居に至るまでに面談を重ねていき、さらに希望や要望、困りごとなど確認をしサービス導入に向けての対応を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様と同様の流れでご家族の希望、要望、困りごとをお聞きしています。面談を重ねる毎に新たな要望や変更事などないかお聞きしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談を重ね、ご本人、ご家族の希望、要望、困りごとの状況を把握し、当施設内だけでは対応が難しい事案を判断し、ご本人、ご家族と相談し他の利用できるサービス等を提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内でも家で過ごしているような関係作りを大事にしています。職員は人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち入居者様に頼ったり意見を頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には入居者様の様子や変化などはその都度伝え、ご本人様の思いなども合わせて報告をしています。ご家族様の意向等をお聞きし一緒にご本人様を支えていけるよう意見交換をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設と同じ地域の入居者様が多く入居されていますので地域の行事に参加し親しい方と会われたり馴染みの地域との関係が切れないようにしています。受診の帰りに面会に来られる馴染みの方もいます。	地域の利用者が多い中で、地域の行事に参加したり、お墓参りや買い物・散歩等で地域の方々とふれ合える場面が増えています。交流を絶やさないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の身体状況や性格等を考慮して入居者様との会話の架け橋を職員が務めるようにしています。他の入居者様と一緒に作業をして頂く事で話しやすい関係作りも行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設より退居され病院へ入院された方は訪問し状況の把握をしています。死亡退居されたご家族様が面会に来られたり、死亡退居されたご家族様が新たに入居されたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で思いを確認し、ご家族からも希望を聞いている。ご本人から確認が困難な場合には、ご家族、職員で話し合い本人本位に検討している。	日常生活の中、声掛けや行動・表情から汲み取り、利用者の暮らしへの思いを把握し、利用者本位のケアに努めています。困難事例に関しては、利用者の思い(本音)を察知し対応に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やご本人から生活歴を伺いアセスメントシートに残している。新たに加わった生活歴なども随時アセスメントシートに残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方など記録に残し申し送りノートなども活用し把握に努めている。また、毎日バイタル測定を行い記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専任の計画作成担当者と協力しながらご家族様、ご本人の意向を伺っている。ご本人の状態に変化が見られた時はすぐに見直しを行っている。	利用者・家族の意向を伺い、状態の変化に応じアセスメントやモニタリングを繰り返し、短期目標は職員で評価を行い、より良い介護計画の作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の特に大きな問題点などは個別のアセスメントシートに記録し、職員が把握できるようにしている。そのアセスメントシートを活用しその後のプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対応し、ご本人様にとって一番よい方法を常に考えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との良い協働を築けるよう地域行事へ入居者様と一緒に参加しています。行きつけの美容室へ行ける事を楽しみにしている入居者様もいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の病院を受診されていた地域の方が多く入居されている施設であり、入居後も引き続きかかりつけ医との関係が維持されています。また、希望する適切な医療を受けられるようかかりつけ医と協力している。	希望するかかりつけ医を支援することを基本としていますが、現在は入所前のかかりつけ医である母体医療機関による受診を支援しています。日頃の関わりの中で気になることがあれば、早めに主治医に相談を行い指示を仰いでおり、主治医との連携や医療支援は、家族の信頼や安心にも繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で2名の看護師が勤務しています。介護職は入居者様の変化があった際報告し指示を受けたり必要なら病院受診を行っています。夜間帯や休日でも介護職からの連絡を受け指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の病院へ入院される事が多く情報交換は密に行っています。ご家族とも話し合いながら退院時の受け入れがスムーズに行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針の説明を行っています。入居者様の状態が重度化する前や医師からの予後についての説明を受けた時にもご家族と対応の方向性を決めるようにしています。	重度化、終末期支援については、利用者・家族の気持ちを一番に、安心や穏やかな時間を過ごせるよう家族と相談して決めています。事業所では、医療行為がなければ看取りまで支援できるようにしています。	看取りを支援するようになったことで、経験の少ない職員や新人職員の研修を行っていますが、職員全体(医師・看護師も含めて)で率直に話し合い、具体的な役割を含めたマニュアルを作成されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、誰でも見れるよう解りやすい状況に応じたマニュアルに分けています。緊急の連絡体制も作成し周知しています。研修や勉強会等にも参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災の専門職の方の指導と年2回以上の総合防災訓練を行っています。法人全体でも防災委員会があり法人と地域との連携を図っています。	年2回、昼・夜間想定火災避難訓練を実施しており、災害時マニュアルの整備や利用者個々の避難リュック(衣類・情報その他)を準備しています。	自然災害時の具体的な避難策を昼夜を通して検討し、確実な避難誘導ができるよう実際に訓練に活かされることを期待します。また、地域との協力も必要です。運営推進会議で具体的な支援を依頼される事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の気持ちになり感謝と真心で接するという理念を忘れず、一人ひとりを尊重した声掛けや接し方を行っている。	トイレや入浴支援に限らず、利用者の尊厳に配慮した対応について職員の共有に努めています。居室前の名札についても、プライバシーの観点から名前は記載されていません。利用者とともに作成した飾り物を目印に、自分の部屋の認識に繋げています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいよう声掛けを工夫したり思いや感情を表出しやすいような関わりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは作っています。ご本人様の要望に極力答えられるようにしているがすべては対応できていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には別の服に更衣してもらったりお化粧のサポートをしている。入浴時には着替えなどご自分で選んでもらっている。ダンスの中から取り出す事ができない方は職員が手にとり選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けなどを手伝ってもらったり調理、味付けなどもしてもらっている。家庭菜園をしており、栽培、収穫、食すの一連の流れを体験してもらい食事に楽しみをもてるようにしている。	献立は法人の栄養士が作成し、厨房より配達されています。汁物は事業所で職員が作り、配膳され提供されています。野菜等は地元商店から届き、敷地内の菜園で収穫した野菜の活用は、更に楽しい食事支援となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく摂取してもらえよう栄養補助食品なども取り入れ一人ひとりに合わせた食事量にしている。毎日の食事量、水分量を記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行ってもらうよう声掛け、誘導を行っている。月に一回協力機関の歯科衛生士のもと、口腔ケアの勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様には出来る限りトイレやPTトイレを使用して排泄をして頂くようにしています。身体的に立位が難しい入居者様でも職員が二人で介助を行い、トイレでの排泄を続けられるように支援しています。	排泄チェック表にて声掛け誘導していますが、身体状況の変化に応じてパターンを見直し、その時々で声掛け・誘導・自立の継続が出来るよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄をチェック表にて確認しパターンや形状、量など把握するようにしています。排便に関しては医師の指示での薬によるコントロールと便秘を改善しやすい食材の摂取や水分補給なども行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の身体状況や様子により曜日に関わらず入浴して頂いていますが、時間帯は午前中での入浴が基本となっています。個々の希望に沿った時間帯での入浴には対応できていない。	個々の体調や要望等に配慮し1対1でゆっくり会話を楽しみながら週3回の入浴支援に努めています。拒否の利用者にも安心される声掛けや誘導を工夫し、時間や曜日等いつでも入浴出来るよう臨機応変に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中での活動を増やし良眠できるように生活リズムの支援を行っています。日中でも状況により休息の時間を取り入れるようにし、居室の環境を整え、どの季節でも良眠できるように管理を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は必ず職員が行っています。受診にはなるべく職員も同行しDrに入居者様の様子を伝えるようにし、Drから薬の説明を入居者様と一緒に聞くようにし、薬情にも目を通すようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の入居前の生活歴や趣味、特技等を把握し、1人で行う役割や、入居者様数名で行う役割などを判断して支援しています。時には入居者様が先生になる場合を意識的に作ったりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事等や受診などで毎月外出する機会があります。入居者様、ご家族に希望を聞き外出レクリエーションを行う事もあります。日に関わらず近所を散歩にお連れしたり外出する機会を増やしています。	天気の良い日は事業所周辺の散歩や敷地内の菜園を見学したり、デッキでお茶を飲んだり、ストレスを溜めないよう外気浴を楽しんでいます。また、外出レクリエーションでドライブに行き四季折々の自然を楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かり金庫で保管しています。必要時に一緒に買い物へ行っています。ご家族にはその都度収支報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居様が希望した時はご家族様と電話をしている。ご家族や知人などから電話があった時にはいつでも取り次ぐようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りなどを入居者様にも作って頂き、フロアに飾っている。毎日掃除の時間を作り居心地の良い環境を維持しています。	明るい清潔なホールでは、仲の良い利用者同士が談笑し、体操や歩行訓練、作品作り等に生き生きと取り組んでいます。日当たりの良いテラスでは、四季の花を育て、家庭的な生活空間があり、利用者の癒しの場となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	音楽鑑賞、テレビ鑑賞など各自したい事できるように席を移動している。仲の良い方どうしで話せるように席なども配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されるときに自宅等で使用していたテーブルやタンスなどを持ってきてもらい本人が居心地よく過ごせる居室にしている。	入所前に利用者・家族と話し合い、使い慣れた家具や寝具等を持ち込み、生活環境が急変しないよう配慮し、安心して居心地良く過ごせるよう工夫しています。家族写真・馴染みの湯飲み・本や写真集・ぬいぐるみ等を持ち込まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じ転倒等の危険がないよう、家具やベッドの配置を変更し環境整備を行っている。自立してできるよう整容道具、口腔ケア用品など置き場所を検討し環境作りしている。		